

平成7年1月～令和2年12月までに当センターにおいて

病理解剖をお受けになった患者さんのご遺族の方へ

(1) 研究の概要について

当センターでは下記の研究機関と共同で「剖検例を用いた遺伝子多型と老年病発症リスクとの関連解析」を実施しております。

悪性腫瘍（肺癌、胃癌、大腸癌、前立腺癌など）、心血管系疾患（脳梗塞、心筋梗塞、動脈硬化症など）、糖尿病、骨粗鬆症（大腿骨頸部骨折、椎体骨圧迫骨折など）、認知症、感染症などの疾患は高齢者での発症率が高く、老年病と称されます。老年病は遺伝因子と環境因子の両者が複雑に関連して起こると考えられています。喫煙、飲酒、運動、食事といった生活習慣に代表される環境因子が種々の老年病の発症に関係していることは良く知られた事実です。しかし、同じ生活習慣の人が同じように老年病リスクを持っているわけではありません。食事の中に含まれる種々の物質を代謝する酵素の働きは個人ごと異なりますが、この酵素の働きを決めているのが遺伝子多型です。この遺伝子多型と種々の老年病の発症との関連を検討する予定です。

具体的には平成7年1月～令和2年12月までに東京都健康長寿医療センター（旧東京都老人医療センターを含む）で病理解剖された方が研究の対象となります。病理解剖のご承諾の際に遺伝子検査を含む医学研究へのご協力にもご承諾いただいておりますが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「剖検例を用いた遺伝子多型と老年病発症リスクとの関連解析」 「承認番号：第 R16-55 番」

研究期間：承認後から令和5年3月31日

研究代表者：東京都健康長寿医療センター病理診断科・部長

新井富生

研究責任者

東京都健康長寿医療センター研究所老年病理学研究チーム

神経病理（高齢者ブレインバンク）

齊藤祐子

イムス三芳総合病院・臨床検査科・部長

田中雅嗣

香川大学医学部・腫瘍病理学・教授

松田陽子

東京医科歯科大学難治疾患研究所・分子疫学・教授

村松正明

三重大学イノベーション推進機構・先端科学研究支援センター・研究員

小林裕子

自治医科大学・情報センター・准教授	三重野牧子
浜松医科大学・腫瘍病理学・教授	梶村春彦
東北大学・薬学部生活習慣病治療薬学分野・教授	平澤典保
岡山大学・医学部腫瘍制御学分子遺伝学分野・特任教授	清水憲二
東京大学医学部・泌尿器科・准教授	鈴木基文
東京都健康長寿医療センター・健康長寿イノベーションセンター・専門副部長	田中紀子
順天堂大学医学部難治性疾患診断・治療・教授	岡崎康司
国立国際医療研究センター研究所感染症制御研究部・特任部長	秋山 徹
国立長寿医療研究センター研究所・研究所長	新飯田俊平

研究分担者

東京都健康長寿医療センター・理事長	鳥羽研二
東京都健康長寿医療センター・糖尿病・代謝・内分泌内科・非常勤医	森 聖二郎
東京都健康長寿医療センター研究所老年病理学研究チーム 神経病理（高齢者ブレインバンク）	村山繁雄
東京都健康長寿医療センター高齢者バイオリソースセンター	松原知康
東京医科歯科大学難治疾患研究所・分子疫学・准教授	佐藤憲子
東京医科歯科大学分子病態検査学・教授	沢辺元司
東北大学・薬学部生活習慣病治療薬学分野・准教授	平塚真弘
順天堂大学医学部難治性疾患診断・治療・准教授	江口英孝
国立国際医療研究センター研究所・感染症制御研究部・上級研究員	竹本訓彦
国立国際医療研究センター研究所・生物統計学・学術振興会特別研究員	山崎茉莉亜
国立国際医療研究センター研究所国立看護大学校基礎看護学・講師	森那美子
国立長寿医療研究センター研究所 メディカルゲノムセンター・疾患ゲノム研究部・部長	尾崎浩一

(2) 研究の意義・目的について

種々の遺伝子の遺伝子多型と老年病発症リスクを明らかにすることにより、上記老年病の発症リスクが高い人、生活習慣を改善することにより老年病の発症リスクを減らすことができる人が明らかになります。これらのことが分かると、リスクの高い人には生活習慣の改善を勧めたり、早期発見に努めるよう検診を受けるよう助言することができるようになり、老年病の予防、早期発見につながります。

(3) 研究の方法について

通常、病理解剖中に採取した組織からDNAを抽出して、調べようとする遺伝子の塩基配列を明らかにし、老年病発症との関連を統計学的に検討します。

(4) 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる試料：病理解剖で得られた腎・食道・脾組織等から抽出したDNA

研究に用いる情報：年齢、性別、疾患の有無、喫煙歴、飲酒歴

(5) 外部への試料・情報の提供方法

遺伝子解析のため、冷蔵状態のDNAを宅配便で以下の研究担当者に送付する。

三重大学イノベーション推進機構・先端科学研究支援センター・研究員 小林裕子

東京医科歯科大学分子疫学・教授 村松正明

浜松医科大学腫瘍病理学・教授 梶村春彦

東北大学薬学部生活習慣病治療薬分野・准教授 平塚真弘

国立国際医療研究センター・生物統計学・研究員 田中紀子

順天堂大学医学部難治性疾患診断・治療・教授 岡崎康司

国立国際医療研究センター研究所感染症制御研究部・特任部長 秋山 徹

国立国際医療研究センター研究所国立看護大学校基礎看護学・講師 森那美子

国立長寿医療研究センター研究所・メディカルゲノムセンター・

疾患ゲノム研究部・部長 尾崎浩一

(6) 資料の保管と、他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者さんの個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。共同研究者内でデータは共有しますが、その場合にも個人の特定はできないように取り扱います。また、他の研究へ二次利用する場合は別途倫理審査を申請します。なお研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後10年間保管します。保管責任者は主任研究責任者とし、保管場所については東京都健康長寿医療センターの所定の棚において施錠可能な状態で保管します。

(7) 問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

電話 03-3964-1141 内線 2410 (平日 9:00~17:00)